

令和4年度事業計画

令和4年3月21日～令和5年3月20日

新型コロナウイルス感染拡大による社会状況の激変は2年超に及び、中流という言葉が消え貧困家庭の増加が顕著になった。また東日本大震災から10年を過ぎても一層困窮の度合いを増す世帯が増加している厳しい社会情勢を背景に、助成による援助は一層その必要性を増している。

しかしながら当財団の財政状況は昨年度に続いて今期も収入が見込めないため、事業の中では最も大切にする「研究開発助成事業」と「奨学金助成事業」の二つのグループに活動を絞り込み、それ以外の事業に関しては募集を一時停止して事業規模を縮小しつつ、限りある財源で社会の要請に出来る限り応えるべく、以下の事業を行う。

また今後の社会情勢によっては、財団組織自体の存続の検討をも視野に入れつつ、変化に応じられるような準備を行う。

1. 研究開発等助成事業

研究開発等のグループ

- (1) 山形大学 農学部（永井教授）の「うるち玄米およびもち玄米を用いた機能性豊かな玄米豆腐の製造技術開発」に対して助成を行う。（新規研究）
- (2) 石川県立大学 生物資源環境学部（中口准教授）の「次世代の食中毒を含む感染症の対策に向けた抗微生物活性を有する新素材の開発研究」に対して助成を行う。（新規研究）
- (3) 中村学園大学 栄養科学部（三成教授）の「森林保全のために駆除されるエゾ鹿の肉を有効利用した薬膳発酵食品の開発と環境保全事業」に対して助成を行う。（新規研究）
- (4) 神戸大学大学院 国際文化科学研究科（辛島准教授）の「観光と国際政治 一国連世界観光機関を事例として」に対して助成を行う。（新規研究）
- (5) 専修大学 人間科学部（金研究員）の「コロナ禍での防災食等に関する社会学的研究—コミュニティの活動家に対するアンケート調査及びインタビュー調査—」に対して助成を行う。（新規研究）
- (6) 東京都立大学 都市環境学部（坂本助教）の「地域社会を主体とした自然観光資源の保全と観光利用に関する研究」に対して助成を行う。（新規研究）

教育等のグループ

- (7) 立命館大学 食マネジメント学部（井澤教授）が担当する総合講座「食とジャーナリズム」に対して助成を行う。（新規研究）

(8) 玉川大学 観光学部(法島教授)が担当する寄付講座「ホスピタリティ・マネジメント」に対して助成を行う。(新規研究)

(9) 和歌山大学 観光学部(大浦教授)が担当する寄付講座「地域づくりの理論と実践」に対して助成を行う。(継続研究)

2. 奨学金給付事業

全国の大学・短期大学・専門学校において、「ホスピタリティ」事業に関わる学科を専攻する学生、或はホスピタリティや食文化に関心を持っている学生を募集・選考し、22名に対し奨学金月額20,000円を給付し、ホスピタリティ文化やホスピタリティ事業を担う人材の育成を図る。〈一般募集〉

東日本大震災の被災学生を対象とした特別奨学生21名(うち既に特別奨学生選考委員会で採用を内定したもの18名、3月末に採用予定の進学予定者3名)に対し奨学金月額25,000円を給付し学業の継続を支援すると共に、ホスピタリティについての関心を醸成する。〈特別募集A〉

特定非常災害対応の〈特別募集B〉応募なし。

3. 海外研修・留学等助成事業

募集停止中

4. 研修会等開催助成事業

募集停止中

5. 文献・資料等収集整備事業

専門書・資料等これまでに収集した、食や観光などホスピタリティ事業に関する蔵書を、広く一般市民や奨学生、または業界関係者に開放する。

また、ホスピタリティ産業に対する理解と関心を深めるため、奨学生他に対し、蔵書の中から刊行物及び資料を配布する。

6. その他の事業

(1) ホスピタリティ事業の振興に役立つ事業に対して助成を行う。

以上